

軽井沢サクラソウ会議 NEWSLETTER ニュースレター



軽井沢の自然環境を保全するボランティア団体

設立2000年

Vol.132 2024.10.5発行

生き方

軽井沢の今夏平均気温が過去最高を記録したという。気候危機が叫ばれ続ける中で地球の悲鳴が聴こえてくるようだ。私たち高齢者世代は、自然の恩恵を享受し尽くした感がある。経済優先、効率優先ではない生き方を模索し、自然と共存できる姿を示すことが我々に課せられた使命ではないのか。後世への責任ではないのか。自らの生き方を見直さねばならない、と痛切に感じている。

[須永 久]



軽井沢の四季彩便り 49

『イチイ』

写真・文 渡辺 久義 (会員)

軽井沢では生垣として見かけます。秋、トゲトゲ葉っぱの中にプックリとした赤い実を付けます。果肉は甘く子供の頃のおやつでした。種子は毒性があるので食べないように。鳥の好物で種は空を飛んで遠くの地で芽吹きます。別名はオンコ。思い出すのは焼尻島の風景、群生樹のトンネルを抜けた先に見えた青い海が忘れられません。聖徳太子が持っているのがイチイの笏。果肉を嘗めつつ「十七日く大事は独断ですべからず」と宣わん。

軽井沢サクラソウ会議 記録&予定 《記録○(9月) 予定●(10月～2025年2月)》

10月～2月

2025年

○9月29日(日) 13:00～15:00

きのこ観察会 軽井沢タリアセン共催

●10月11日(金) 9:00～12:00

モニタリング1000里地調査

タリアセン駐車場集合

●10月11日(金) 14:00～15:30

定例会 中央公民館視聴覚室

●10月12日(土) 13:30～15:00

野の花さんぽ 軽井沢タリアセン 中央ゲート集合

●10月19日(土) 9:00～12:00

大日向「再草原化実験地」草刈り 現地ゲート集合

●10月24日(木) 13:30～

自然保護審議会 傍聴可

●11月1日(金)～4日(月)

9:00～17:00 (最終日のみ15:00まで)

第40回軽井沢町総合文化展 植物のヒミツ (植物標本)
中央公民館

●11月8日(金) 14:00～15:30

定例会 中央公民館視聴覚室

●11月28日(木) 13:30～

Xマスリース ムーゼの森 カフェ「ルーエ」要予約

●12月13日(金) 14:00～15:30

定例会 中央公民館視聴覚室

CONTENTS

1 巻頭言／『軽井沢の四季彩便り』49／記録&予定

2・3 再草原化実験地「三ツ石」の草刈り

特定外来植物アレチウリ駆除活動

今年もやります! Xマスリースづくり

4・5 発地休耕田植物観察会

6 アケボノソウの生き方にびっくり! 蜜を与える作戦?

7 風越山の整備

8 コラム②上発地昔物語/事務局から



8/10

再草原化実験地「三ツ石」の草刈

8月10日、今年で確か16年目になるはずの草刈を総勢8名で、午前6時から開始した。2年区を含む例年の2倍近い草原はいつになく手強い。寄る年波のせいもあるだろう。幸い太陽は雲に覆われていたものの夏真っ盛り、蒸し暑いことこの上ない。



エゾミソハギ

チダケサシ

コオニユリ

サ会議の会員でありながら草花の名前を覚えるのに苦労しているが、ここで出会った「エゾミソハギ」、「チダケサシ」、「コオニユリ」などは見分けられるようになった。毎年草刈に参加してきたお陰である。

休憩をはさみ9時半となり、まだ終了とはいかなかったが、若い人に残りを託し現地を後にした。もっと多くの人に参加してもらう方法、手立てはないでしょうかね。

[一色達郎]

今年もやります!

クラフト作り(Xマス)リース、
オブジェ、オーナメント...



お散歩で見つかり、お庭の片付けでいつもは捨ててしまう木の実、葉っぱ、小枝、ツル植物などを使って、クリスマスリースやお正月飾りなど作りましょう!

日時:11月28日(木) 13:30~15:30頃まで

場所:ムーゼの森 カフェ「ルーエ」

持ち物:いろいろな植物、あれば園芸用ハサミ、軍手か園芸用手袋、新聞紙、お手拭き、お飾り用リボン等

★参加ご希望の方は事務局にお申し込み下さい。

皆様のご参加楽しみにしています。

9/3

特定外来植物アレチウリ駆除活動

9月3日軽井沢町茂沢水力発電所下流、湯川河川敷のアレチウリが町道のガードレールを超えて車道にまで伸びていた。種子をつける寸前の状態で、早急に駆除しないと車両などにより拡散する危険が迫っている。7月初めには環境課とともに現場を確認していたが、関係機関の連携が不調で今年は手つかずのまま放置されていた。



茂沢発電所のガードレールを覆うアレチウリ (撮影:須永久)

翌日、やむに已まれぬ思いで佐久地域振興局環境保全係に電話を入れたところ、担当者の迅速な対応により即日駆除許可がおりた。電話でのやり取りの中で、「我々担当者レベルとしてはぜひ積極的に駆除して欲しいというのが本音です。」と言われた。

私はとっさに「本来ならば土地管理者が駆除すべきですね。罰則規定もあるのですから。」と返していた。

道路管理者にも河川管理者にも「住民の生命財産を守る」という重大な使命があるのは承知だが、我々にも他の活動を優先したいという思いは強い。

茂沢地区は、21年10月に会員からの情報

によって知るところとなったが、町内でも最悪の状況と思われた。22年に環境課職員が動き、昨年は町が初めて外部委託したシルバー人材センターの職員が一人に対応された。



2013年油井の斜面を覆いつくすアレチウリ。現在、駆除しはば無い。

アレチウリの花
(スズメバチが好き)

アレチウリは一年草ではあるが一度種をつけると「土壌シードバンク(注)」を形成し、数年にわたって5月頃から10月頃まで発芽を続けるという厄介者である。種子は軽く、水に浮くため水系を通じて分布拡大する。

我々軽井沢サクラソウ会議は2011年から環境課とともに特定外来植物駆除を続け、13年に油井地区でアレチウリに遭遇した。年に複数回の活動とともに絶対に種をつけ



アレチウリの種子
トゲで人や車両に付く
(撮影:カトラーめぐみ)

注:土壌シードバンク 種は発芽に適した条件が整うまで土壌中に埋土種子となって存在する。この種子集団のことをいう。アレチウリの場合当年産の種よりも1～2年経ったものの方が発芽率が高い。

【参考】
長野県版外来種対策
ハンドブック アレチウリ



させないよう監視を怠らぬ対応が求められる。浅間サンライン沿いやしなの鉄道沿線で樹木をドーム状に覆いつくす状況を目にする機会も増え、いまや待ったなしの状態である。町内への侵入を許せば一気に生物多様性が損なわれることは必至である。

シルバー人材センターの人手不足により、本年度は町内の造園業者が駆除を請け負っている。この業者の動きは稀にみる速さであった。許可の下りた日の夕刻には責任者が現場を下見し、現地から私宛に細部にわたっての照会電話が入った。偶然仕事の空きが出たとのことで翌日から2日間で駆除を終えるという驚くべき対応であった。

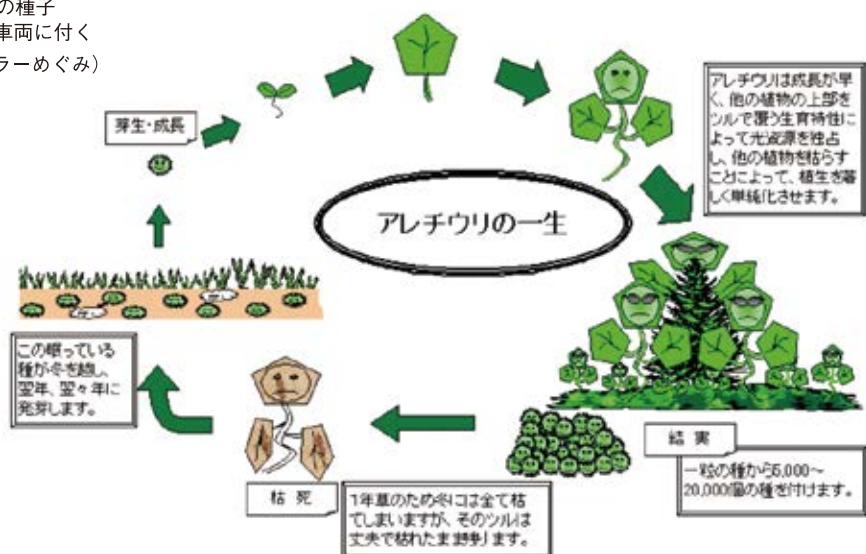
熱心に動いてくれる業者は今後も大きな力になる。ぜひ継続した取り組みを強化して欲しいものである。

この難敵に立ち向かうには官民一体の行動が不可欠である。行政は広報に力を入れ、情報収集に努めるとともに地権者自らの駆除を要請すること。

外来生物法では許可なく飼養した場合、個人の場合で1年以下の懲役もしくは百万円以下の罰金が課せられることも周知すべきである。

地域住民全体で危機感を共有し、町内では絶対に繁殖を許さないという決意のもとに知恵を出し合い、行動に移すことが求められている。

[須永 久]



出典：長野県環境部水大気環境課

発地休耕田植物観察会

日々変化している軽井沢ですが、町の南側に広がる休耕田には未だ貴重な植物が生き残っています。9月13日(金)午後、群馬県立自然史博物館の大森威宏先生に講師をお願いして、植物の観察をしました。会員のカトラーさんが写真・資料集を作ってくださいました。



ヒメマツカサススキ (姫松毬芒)

Scirpus karuisawensis Makino

- ・ カヤツリグサ科 (ススキという名がつくがイネ科ではない)
- ・ 水湿地を好む日本在来多年草
- ・ 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類(VU)
- ・ 1904年に牧野富太郎博士が軽井沢矢ヶ崎付近で発見・命名
学名に *karuisawensis* が付く
- ・ 現在、群馬(嬭恋)、長野(軽井沢)、山梨(北アルプス市) (いずれも絶滅危惧種指定)以外に長崎にも分布しているが、朝鮮半島が近いことが理由とされる
- ・ 元々南軽井沢(現アウトレット)にも多く生育していたが、開発の為に消えてしまった
- ・ 現在は発地と馬取に残る
- ・ 種の保存…水分や日照条件の維持が必須。休耕田の形で残すのが望ましい

生き残っている
貴重な植物たち



牧野富太郎博士が発見



発地観察会でも
アレチウリを駆除 (撮影:今城治子)



ヤチアザミ (谷地薊)

Cirsium shinanense T.Shimizu

- ・ キク科アザミ属
- ・ 上向きに花を咲かせ、太く丈夫な地下茎で繁殖
- ・ 湿地や休耕田に生育。長野県、群馬県に分布する
日本固有種(国立科学博物館資料)
群馬県(絶滅危惧ⅠB類)…嬭恋
長野県…菅平、白馬村、居谷里湿原
- ・ 日本での分布南限は佐久地方



オモダカ（面高）
Sagittaria trifolia L.

- ・オモダカ科オモダカ属
- ・日本在来種
- ・水田、湿地、ため池などに自生
- ・水田では雑草として扱われるが、水田にオモダカがあるという事は除草剤などの使用が控えられているという証明の様なもの



観察会では知識がないと普段全く目に入らないようなミクリ、ホソバヒルムシロなどの水草について教えていただいたり、普段アブラガヤだと思っていたものが、コマツカサススキとアブラガヤの雑種と知ったり、軽井沢の学名を持つ植物「ヒメマツカサススキ」を見ることができ、大変勉強になりました。ヒメマツカサススキの草姿はスツとしてスマートで、点々とついている穂もかわいらしく、草地の中で目を引く涼やかなカヤツリグサでした。 [名嘉真祈子]

ナガエミクリ（長柄実栗）
Sparganium japonicum Rothert

- ・ガマ科ミクリ属 日本在来 水生多年草
- ・環境省カテゴリー準絶滅危惧(NT)
- ・農業用水路や河川緩流部に生育
- ・葉の一部が下流に流れ、そこから根を張ることができる
- ・高さは100cm以上にも育つ



ハグロトンボ（羽黒蜻蛉）
Calopteryx atrata

- ・カワトンボ科アオハダトンボ属
- ・環境省カテゴリーはないが、各地で絶滅危惧指定されている

サフヒヨドリ（沢鶉）
Eupatorium lindleyanum DC. var. lindleyanum

- ・キク科ヒヨドリバナ属
- ・日本在来多年草
- ・湿原周辺、山間の湿田周辺、湿った草原に生育
- ・葉は対生、時に3深裂、3主脈がある



タカアザミ（高薊）
Cirsium pendulum Fisch. ex DC.

- ・キク科アザミ属
- ・一回繁殖型
数年かけて根が成長し、ぶら下がるように下向きの頭花を多数つけ結実した後は枯死する
- ・群生ではなく一本株
- ・茎の高さは4mに及ぶこともある

休耕田の中に一部耕作地がある平坦な地域。軽井沢とは思えない暑さ、秋とは思えない陽射しの中での観察会。

水路の水草ナガエミクリは結構なレア物だそうで若株は水中で過ごし、成長すると株の半分位は水の外に出て実をつける。この植物があるということは湧き水が近くにあるということだそう。ただ散歩していて水路を見ても私は絶対気づかないしわからない。

休耕田ではヒメマツカサススキとその仲間たち、南軽井沢の湿原と原野…「これぞ軽井沢の原風景」という景色を目の当たりにした。大森先生が「日本の中の満州」と表現されたのが印象的だった。 [伊賀富美子]

アケボノソウの生き方にびっくり！ 蜜を分け与える作戦？

会員 伊藤良則

私がアケボノソウに初めて出会ったのは、
昨年の軽井沢タリアセンでの観察会の時でした。
白い花に描かれた独特の模様に目を奪われました。
夜明けの星空、つまり「曙」から名付けられています。
黒紫色の点は星、緑色の丸は明けの明星、金星？
きっと、人気がある花だろうと印象に残りました。

なぜ、こんな模様をしているのだろうと思
っていたら、緑丸は蜜腺溝であると教えても
らいました。蜜を吸う蟻を見ることができ
ると。蜜をこんなに開けっぴろげにして大丈
夫なのかと心配になりました。蟻は蜜を吸う
だけで、花粉を運ばないのなら、何のために
蜜を出血大サービスしているのだろうか。



アケボノソウの花（撮影：伊藤良則）

そこで、学術的研究があるかも知れないと
思い調べてみました。花粉を運ぶのは大型の
ハエ目・ハチ目の昆虫であり、蜂は雄蕊に覆
いかぶさり蜜を吸う。しかも、蜂は円上に配
置された緑丸の蜜腺をたどりなら、回転しな
がら蜜を吸うのだそうです。それにより花粉
が体に付き運ばれます。なんと良く考えられ
ていることでしょうか。

蜜を分け与えて生きる。「giveして生きる」
なんて素敵な生き方なのだろう。今年の9月
14日に、私が案内役をした「野の花さんぽ」
で、このアケボノソウの生き方を紹介したと
ころ、大変共感して頂きました。人間もそう
すれば争いがなくなるのに。

でも、待てよ、蜜をオープンにして本当に
生きていけるのでしょうか。多くの花では蜜

は奥深く隠して、それを吸い出せる昆虫だけ
が有効な送粉者となります。様々な昆虫が来
て蜜を持っていけば、受粉が本当にできるの
でしょうか。この花はどうやって送粉者を選
択して生きているのだろうか。蜜がいっぱい
あるのに蟻だらけというわけでもなさそうで
す。なぜでしょう。それでも子孫を繁栄させ
ているのは何か有効な別のシステムがあるの
かも知れません。綺麗な花に感動し、不思議
な自然の仕組みに驚嘆し、学ぶことの多い日
々です。

引用文献

Wang S et al. Nectary tracks as pollinator
manipulators: The pollination ecology of
Swertia bimaculata (Gentianaceae),
Ecology and Evolution, 2018, 8.6



風越山から浅間山を望む

発足のキッカケ

去る9月7日、風越山の整備が行われた。平成17(2005)年より続いている風越山の整備である。当時、町で「町づくり交流会」なる事業があり町の抱える様々な問題について大勢の町民が寄り合い議論し、解決策を見出だすということであった。南地域では自然保護について検討し、その中で風越山の整備をしようということが決まった。

道沿いの
オクモジハグマ

整備活動が始まる

調査のため頂上に上ると、雑草が生い茂り灌木も視界を妨げていることがわかった。頂上付近は町有地であるので、町に「風越山整備計画企画書」を提出し町の許可をもらい、草刈りや木の伐倒を行うことになった。関係者や発地の住人に声がけをして20名ほどが集まり整備を実施した。刈り払い機やチェーンソーを持ち寄り登山道の草を刈ったり、頂上では灌木を伐り倒し並べてベンチを作ったりした。

風越山はほぼ町の中にあり単独峰であるので眺望は良い。北は中軽井沢や浅間山、東は軽井沢駅や碓氷峠の山々、西や南は田畑と北アルプスが見えた時には、皆、感動した。



風越山 標高1014.7m

作業あとの楽しみ・・・

以来連綿として整備をし、夜には慰労会と称し酒を酌み交わしている。時には中秋の名月を見るため夜に登って「月見の会」をしたこともあった。20年も続くとは思わなかったが、皆高齢化し作業は大変になった。それでも昨年と今年は杭とブロックを使い急傾斜の部分に階段状にしたいぶ楽に登れるようになった。

町にも周遊道路を整備するようお願いしている。約10分程度で登れる山なので風越公園を利用するスポーツ団体の皆さんにもトレーニングを兼ねて登るなど、大勢の方に利用していただけたら嬉しい。



手作りのベンチ

初期に整備した階段

今年整備した階段

町のHPにも風越山の記事が掲載されています

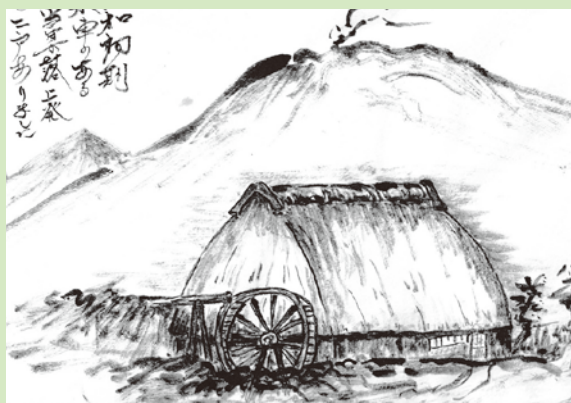
<https://www.town.karuizawa.lg.jp/www/contents/1711511893632/index.html>

水車

佐藤輝夫

昭和初期まで水車のある家が当集落、上発地にも二戸ありました。町としても二戸あるのはめずらしいです。山ぎわの集落なので、水の高低差が作りやすかったでしょうが、一ヶ所は八風山ぎわの俣田平三郎氏宅で、もう一ヶ所は発地川ぞいでした。川の水を利用して休みなく動力源を出す。

上発地最長老の佐藤輝夫さんは、ご自分の思い出を障子紙の巻物に墨で書かれていらつしゃいます。もう10巻にもなる資料を、サ会議のニュースレターに載せていただくことを快諾していただきました。軽井沢に長く住んでいらつしやる方の歴史や思いを知ることは、これからの軽井沢の行く先を考える上で、大切なことだと思います。



先人はよく考えたものです。あのコットン、コットンの音は、農村を思い出す音です。二戸目、集落の上にある水車は佐藤久太郎氏の別宅でありました。子供の頃たずねた時、庭には大きな池が有り、上発地にこんなすばらしい所があると思いました。

しかつたです。現在はとうていすか。初から一度に白米になつてくる無人コイン精米所があちこちにあります。すばらしいです。

私の思い出の一つにこんな事もありました。当時は俵に詰めた米俵を馬に二ツつけるのですが、片方つけて、片方を綱で引いているその役を子供の頃にさせられ、下発地の精米所にはよく行きました。当時としては珍しく下発地の精米所は二つの集落の人達の協力で作リ運営されていました。現在水車も国道ぞいで見かける事がありますが、「そば」店の客寄せにつかわれています。思い出して書いてみました。右上の柄は俣田氏の絵です、なつかしいです。

（石油に頼らなかつた時代の雰囲気、佐藤輝夫さんのこの思い出から感じ取っていただけたでしょう。現代、この思い出と同じことをするのは不可能です。新技術やAIで、脱炭素社会を実現していきたいものです。）

事務局から

ニュースレター配布方法変更のお願い

ニュースレターは、2020年の20周年特別号を試しにカラー化したところ、たいへん好評でした。その後、コロナ感染予防のため、イベントなどが開催出来ないの、2021年8月から本格的にカラー印刷化して、皆様に郵送してきました。

2024年10月からの郵便料金値上げに伴い、誠に

に申し訳ありませんが、次号から軽井沢町内にお住みの方は、HPの閲覧か、町内公共施設、商業施設などにニュースレターを配布しますものを、ご利用頂きたくお願いする次第です。引き続き郵送希望の方は、事務局までご連絡ください。なにとぞ宜しくご理解頂きたくお願いいたします。